

大学初年度学生のパラグラフィティング

-図形をことばで伝えるために-

坂口 昌子（京都外国語大学）
m_sakaguchi@kufs.ac.jp

【要約】

日本語を母語とする大学初年度の学生は、どのような文章を書くのだろうか。また、パラグラフィティングの初歩を学んだ後では、書き方は変わるのだろうか。

本論では、入学してすぐに書いた作文と、春学期間に学んだあとで書いた作文とでは、違いがあるのかということについて、11人の1年次生の図形を描写した文章の変化から考察した。着目したのは、パラグラフィティングの型をどの程度身につけることができるかということである。

その結果、トピックセンテンスを作るということについては意識付けが比較的容易だったのに対し、いくつかの段落を作って述べるということやコンクルーディングセンテンスを作るということに関してはあまり意識させることができなかった可能性が示唆される結果となった。

1. はじめに

大学生の日本語力の低下が嘆かれていますからかなりの年月が経つ。さまざまな大学で初年度教育や、リメディアル教育、日本語リテラシー教育などという名前で講座が開かれ、大学関係者は指導の方法に苦慮している。

日本語力といえば、旧来は野田（2009）が言うように、「正しい漢字が使える」「正しい敬語が使える」ことと、ビジネス文書や論文での引用の作法などのように、「慣習になっている型に合わせる文章」を書くための訓練をすることであった。しかし、今では「伝える内容を選び」「伝える表現を選ぶ」訓練をさせることが重大な項目となっている。（野田（2009））

京都の私立大学である本学でも、少子化、ゆとり教育の影響か、日本人学生の日本語力の低下がここ10年ほど問題視されており、初年度教育として全学部必修の「基礎ゼミナール」などの科目が設けられ、アカデミックライティングやプレゼンテーションの基礎を学んでいる。また、日本語学科では「日本語のスキル（1～4）」¹という科目が提供されるようになって2年が経つ。「日本語のスキル（1～4）」は日本語母語話者や上級の日本語学習者のために作られた科目で、コミュニケーション力の強化、取材力といった専門的な日本語の技能を学ぶ。

本論では、この「基礎ゼミナール」と「日本語のスキル1」を受講した学生が、平易ではあるが、図形を描写するという、あまり体験したことがない課題を与えられたとき、学んだパラグラ

ライティングのスキルをどの程度使うことができるか、次の3つの項目を見ていく。

1. トピックセンテンスが十分に書ける。
2. 段落を意識して接続詞などを適宜使って書ける。
3. コンクルーディングセンテンスを付けることができる。

2. 先行研究と本論の位置づけ

2-1. 先行研究

大学生の書く力、中でも、日本の国語教育ではあまり行われていなかった「根拠を示しつつ自分の意見を述べる」ということの必要性を述べている論考は多い。ピアライティングの授業を通して、自分の意見だけではなく、なんらかの根拠を示して書くということが大事だと学生が気付いたと述べる佐藤・木原（2009）などもあるし、日本の国語教育の指導要領とカナダのブリティッシュコロンビアの言語技術の教育を比較して日本の国語教育では「自分の意見をまとめる」ととどまっている項目が、カナダの言語技術では「その意見を主張するための裏付けができ、聞き手を説得する力を養うこと、そしてそれらをどうやって発信するか」の練習を行うことが明記されている」と述べる黒澤（2014）などもある。

その中で、文章構成について述べられているものはそれほど多くないようだ。山本（2008）は、語彙量や段落数、1文における文字数などの文章構成について、日本語レベルの上位群と下位群にわけて、大学生の小論文を調査している。この論文の中で特に注目したいのは、段落の構成と接続詞の未使用という点の指摘である。段落の数は、日本語力が高いグループと低いグループの両方で個人差が多くみられ、日本語レベルと段落の数は結びついていないということが述べられていた。それは、日本語レベルが高いグループも低いグループも等しく、適切な段落がつけられていない可能性があるからだという。このことは本論の結果とも一致する。

学習指導要領、学習指導項目によると、小学校3・4年生において、「書くこと」について次のように「段落」を意識するように指導するとなっている。

「文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。」（文部科学省（2008））

また、読解の授業では「意味段落にわけて読む」という指導がよくなされているが、読む力を書く力には応用できていないのではなかという可能性も指摘することができるだろう。

段落の構成ということでは、日本では具体的にどういう順番でどういう段落を組み立てればよいかまでは指導していないと思われるが、ドイツでは、三森（2013）によると、たとえば、説明の方法には、「時系列」と「空間配列」があるという。時系列が、時間の順序に従い、一般的には古いものから新しい順に情報を並べる方法であるのに対し、空間配列は空間的に提示された情報を、大きい情報から小さい情報（全体から部分）に向かって並べる方法である。これは、ドイツでは一般的だが、日本では「教育現場で学習する機会ほとんどない」と言う。

2-2. 調査方法

2015年4月に実施した日本語力テストに図形を描写させる問題を出題した。これは日本語学科の1年生が全員受験している。その後、7月に実施した「日本語のスキル1」で期末テストとして同じ問題を再び出した。その結果を比較する。

「日本語のスキル1」という半期間の科目では、述べ方の基本をグループワークの形で学んだ。そこでは三森(2013)やNHK日本語センター(2001)を基にした次のようなタスクをこなしており、空間配列などについては①の課題などで学んでいる。ただし、授業で図形を描写するというタスクをしたことはない²。

- ①絵を見てそれを述べる。(空間配列など、人に伝わりやすい方略を学ぶ)
- ②身近なテーマで根拠のある議論をする。(自分の意見には必ず根拠を示す)
- ③あらすじを段落のある文章に変える。(パラグラフライティングの構成)
- ④少子化に関わるデータを小論文にまとめる。(身近なテーマからアカデミックなテーマへ)

テストの課題は、4月も7月も同じで、図1の図形を相手に直接見せることなく言葉で説明するというものであった。この課題では「なぜそう思ったか」などの根拠を示す必要はないが、視覚情報を言語で伝える必要があるため、ファックスやメールが発達した日常生活においては母語話者といえどもほとんど経験したことがない言語活動であろう。伝え方に工夫のいる課題だと思われる。

これらの2つの試験を共通して受けた学生は11人であったので、この11人の述べ方が、半年後どのように変わったかを比較した。

トピックセンテンスが書かれているか、については3-1で、段落が作れているか、という点については3-2で、コンクルーディングセンテンスを書いて、いわゆるサンドイッチ構造を意識しているかという点については3-3で述べていく。

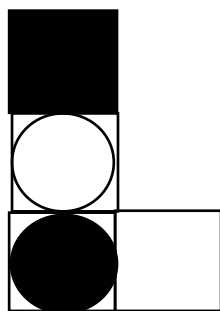


図1 説明に使った図形

3. 調査結果

3-1. トピックセンテンスを書く

結論や概略を先に述べるということが相手に伝える上では大事なことであろう。NHK日本語センター(2001)では、先に大きな情報を伝えるように述べているし、先に概略や結論を述べると

いう戦略は、三森（2013）が言うように、諸外国語を学ぶ上でも、有力なものになると考えられる。

しかし、今までの学校教育の中では、それは積極的に教えられていないようである。小学 2 年生用の国語の問題集に図形を言葉で伝えようという項目のあるものがあつた（株式会社 Z 会（2015））が、全体像を先に述べようとは伝えておらず、「先に大きな情報を伝え、後から細かな部分にわけて文章の構成を考える」というのは、日本語としては一般的・最優先的ではないのかもしれないと思う。

しかし、インターネット上での相談サイト Yahoo!「知恵袋」などでも、「コメントを付けてもらう書き方」として、次の 2 つの例のように、先にひとことで結論を書くというコツを述べているものも見られる。

- (1) その 1 書き出しはかなり重要 回答がつくかつかないかどうかは、文章の書き出しの部分が鍵を握っています。なぜならば、質問を開くまでは、その部分しかパソコン上に表示されないからです。なるべくなら、質問をしたい大まかな内容から書き出したほうが回答が付きやすいです。

(<http://note.chiebukuro.yahoo.co.jp/detail/n76821> 2015 年 8 月 10 日閲覧)

- (2) 文頭でまず知りたい事を書く。できるだけ詳細に、具体的に書く。1 つの投稿でいくつも質問しない。

(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10128206075 2015 年 8 月 10 日閲覧)

また、知恵袋に寄せられている相談トピックにも先に一言で概略を述べるものが多いので、日本語としては頭括型の述べ方が一般的ではないとはもはや言えないと考えられる。

- (3) 親友だと思っていたママ友との関係。犬の購入をめぐる、仲が悪くなつてしまいました。順立てて説明させて頂きます（長文）

・卒園 1 ヶ月程前ママ友（旅行にも行き、一緒にお風呂にも入り、家族ぐるみの付き合い）が、チワワを飼おうかなあと思って 1 日ホームステイを無料でさせてもらった話を聞く。

・卒園 1 ヶ月後私はそんな制度があるなら…と思い同じペットショップを覗いてみる。偶然店員さんがチワワを抱いて登場。抱っこさせてもらう。（以下略 箇条書きで順を追って説明していく）

(http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10147785360)

匿名性の高いネット掲示板なので、回答を寄せてくる人物の中にはかなり手厳しいことを

書く人もいて、なるべく相手に悪印象をもってもらいたくない、真摯な回答がほしいという要求が高いため、日常のメールよりももっと気を使って、このように書き方を工夫するのではないだろうか。

以上のことを考え、調査に使った図1はNHK日本語センター（2001）を参考に作ったもので、小さな4つの正方形をL字型に組み合わせたものである。小さな正方形のパーツには円が入っているものや、黒塗りのものがある。この図を説明する場合、パーツから説明する方法と、大きな形から説明する方法があると思われるが、大きなところから説明するという「空間配列のルール」から考えれば、L字であるということを先に述べるほうが相手に伝わりやすいと考えられる。

15回のグループワークを中心とした授業の中で、どこまで意識化され、文章に反映されるようになったであろうか。次の表1は作文中でLという言葉が使われていたものをまとめたものである。

まず、4月に書かれた学生の作文では、L字型という言葉を使っていたのは、11人中6人で、5人の作文には全く出てきていなかった。また、出てきた数の半分が終了部分での出現であった。

一方、7月に書かれた作文では、11人中10人にL字型ということばが出てきており、なおかつ文章の開始部分で9人が出てくるようになった。

表1 「L」の出現数

「L」ということば	4月	7月
文章の開始部分に出現	3人	9人
文章の中心部分に出現	0人	0人
文章の終了部分に出現	3人	1人
1度も出てこない	5人	1人

4月の段階ではL字型ということばは文章中に1度も出てきていなかったが、7月には文章の開始部分に出てきている例を挙げよう。(4)は4月の例で、(5)は同1人物の7月の例である。

(4) たて方向に3つの正方形のマスが積み重ねて書かれている。またその3つのうち一番下のマスの右には、そのマスととなり合うように同じ大きさのマスが書かれている。たて方向に並んでいる3つのマスのうち、一番上のマスは黒く塗りつぶされ、二つ目には、白丸が、三つ目には、黒丸がえがかれており、残りの一マスは白抜きのマスである。(N-A-4)³

(5) 今から図形を説明する。まずその図形は4つの正方形から構成されている。4つの正方形のうち、3つを縦に並べる。その縦に並べたうち、一番下に来ている正方形の右横に、残り一つの正方形を並べる。上から見ると、L字型になっているはずだ。次に、正方形の中に描かれている模様について述べる。まず縦に並んでいる3つの正

形のうち、一番上の正方形から説明する・・・(後略)・・・(N-A-7)

次の例は、4月ではL字型ということばが文章末に出ていたが、7月には文章の開始部分に出るようになった例である。

(6) まず最初に四角の形をしたボックスが4つあります。その4つにはそれぞれ違った特徴があって、1つは全部真っ黒に塗られたボックス。2つ目はボックスの中に真っ黒に塗られた円が書いてあるボックス。3つ目はボックスの中にただ円が書いてあるボックス。4つ目は何も書かれていないボックスがあります。そのボックスを一番上に真っ黒の・・・(中略)・・・置いて、4つのボックスでアルファベットの大文字の「L」を書くように並べてください。(N-J-4)

(7) まず、それぞれ特徴をもった4つの四角の正方形の形をしたマスがあります。1つ目は黒く塗りつぶされたマス。2つ目はマスの中に円が書かれたマス。3つ目は・・・(中略) この4つのマスを次はアルファベットの大文字「L」の型になるように縦に3つ並び、一番下のマスの右隣に1つ置くような形を作ります。

順番ですが、縦の3つの1番上には黒く塗りつぶされたマス。その下には2つ目に紹介したマスの中に円が書かれているマス。1番下にはマスの中に黒く塗られた円が書かれているマスを並べます。最後に何も書かれていない普通のマスを3つ並べてある内の1番下のマスの中に黒く塗りつぶされた円が書かれているマスの右隣に置いてください。これで最初に言ったように、アルファベットの大文字「L」の型になっていたら完成です。(N-J-7)

上記の2例のように文章レベルとして成長したと思われる学生がいるのに対し、4月も7月も「L字型」ということばが一切出てきていない学生が1人いるのに加え、4月には文章の開始部分にL字型という言葉が見られたのにもかかわらず、7月には終了部分にしか出てこなかった学生も1人いた。

以上のことをまとめると、次の表2のようなになる。

表2 「L字」の出現の有無と出現箇所

出現の有無	人数
無→無	1人
無→文章頭有	4人
文章末有→文章頭有	3人
文章頭有→文章頭有	2人
文章頭有→文章末有	1人

3-2-1. 段落を意識して文章を組み立てられるか

段落は、改行するとか、1字下げるとかの形式的な段落だけではなく、全体を述べる部分と、小さな部分を述べる部分をわけると、文章構成的に考えられるべきである。

1字下げというルールは、横書きになったとたん意識されなくなるのか、4月の段階では、1字下げのルールを守っている学生は誰もいなかった。7月の段階では、3名が1字下げのルールを守るようになったが、他の学生は文章頭の1字下げは守っているものの、段落の頭は、接続詞は付けているのにも関わらず、1字下げの形式を守れない学生が多かった。これにはネット文化の浸透も大きいのではないだろうか。1行空けることで改行を示すような形式もネット文化の中では浸透しているからである。

3-2-2. 意味の段落

しかし、むしろ形式よりも大切なのは、段落によって示される文章全体の構造である。トピックセンテンスとコンクルーディングセンテンスを入れていけば、最低3段落にはわかれるはずである。しかし、4月の段階で、段落らしきものを作っている例は3例だけで、残りの8例は、平面的な構造であった。それが7月になると、段落がまったくないものは5例に減り、6例では、ある程度の段落が構成されている。

次の図2は段落の数を示したものである。4月には各1例しかなかった4段落、3段落、2段落の文章構成が、4段落構成にしたものが3例、3段落構成にしたものが3例に増えている。

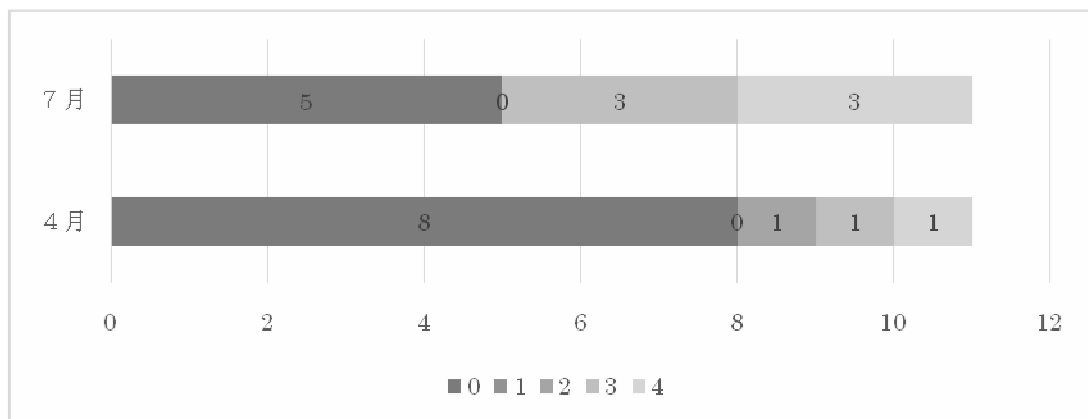


図2 段落の数の変化

次の例は、形式的な段落はまったくないが、全体像と各パーツがわけて書かれている。実線が引いてある部分が全体像で、波線の部分が各パーツの説明だと判断した。接続詞も「まず・次に」などが使われている。トピックセンテンスの前に「これから何をするか」という宣言が書かれているため、4つの段落が構成されていると判断した。

(9) それでは、課題1の説明を始めます。

まず同じ大きさの正方形が4つあり、それぞれ左側に縦に3つ、右側には1つ、積み上げられ、それらがつながってL字になっています。次に、それぞれの正方形の説明をします。まず左側の一番上の正方形は全面を黒に塗りつぶされています。次に左側の真ん中の正方形は正方形いっばいに円がかかれています。左側の一番下の正方形にも同様に円がえがかかっていますが、こちらは円が黒に塗りつぶされています。右側の正方形には何も書き込みません。以上で課題1の説明は終わりです。

(N-I-7)

(10) の例は、トピックセンテンスから文章が始まっている。これで3つの段落が構成されていると判断される。

(10) まず、それぞれ特徴をもった4つの四角の正方形の形をしたマスがあります。1つ目は黒く塗りつぶされたマス。2つ目は・・(中略) この4つのマスを次はアルファベットの太文字「L」の型になるように縦に3つ並べ、1番下のマスの右隣に1つ置くような形を作ります。

順番ですが、縦の3つの1番上には黒く塗りつぶされたマス。その下には2つ目に紹介したマスの中に円が書かれているマス。1番下にはマスの中に黒く塗られた円が書かれているマスを並べます。最後に何も書かれていない普通のマスを3つ並べてある内の1番下のマスの中に黒く塗りつぶされた円が書かれているマスの右隣に置いてください。これで最初に言ったように、アルファベットの太文字「L」の型になっていたら完成です。(N-J-7)

次のものは、1字下げの形式も守れ、意味的にも段落わけができています。このように形式的なルールを守っていたのは3例に増えたが、(11) の例を除いた2例は、なんとなく1字下げしているだけで、意味的な段落が作れているわけではない例だった。

(11) これから4つの正方形の図について説明する。

まず、正方形の配置である。縦に三つ、正方形が連結しており、一番下の正方形の右隣に、残りの一つが連結している。全体図を見ると、「L」の字形となっている。

次に、それぞれの正方形の特徴を述べる。3つ並んだうちの一番上の正方形は、黒く塗りつぶされている。真ん中と一番下の正方形の中には、円が描かれている。大きさは正方形の縦、および横の長さが直径となるものである。一番下の円は、黒く塗りつぶされている。残り1つの正方形は、色も塗られておらず、円も描かれていない。

以上の説明をふまえ、この図をもう一度振り返ると、黒の正方形の下に、円の書かれた正方形があり、その下には、黒い円の書かれた正方形がある。その右隣には、

何もされていない正方形がある。という図になっている。(N-C-7)

3-3. コンクルーディングセンテンスを書く

先に結論を示すと同時に、最後にもまとめの部分が必要であるが、4月の段階では、1例もまとめがついていたものはなかったが、7月では7例に何らかのまとめが付けられていた。

表3 まとめの有無とまとめの種類

	4月	7月
なし	11例	4例
全体像を繰り返す	0例	4例
終わったことを宣言する	0例	3例

まとめとして図形の全体像を繰り返す例が4例見られた。例を挙げると、次のようなものがある。

(12) 以上の説明をふまえ、この図をもう一度振り返ると、黒の正方形の下に、円の描かれた正方形があり、その下には、黒い円の描かれた正方形がある。その右隣には何もされていない正方形がある。という図となっている。(NS-C-7)

(13) これで最初に言ったようにアルファベットの大文字「L」の型になっていたら完成です。(NS-J-7)

また、図形全体を改めて振り返ることはしなかったが、ただ述べるだけで終わるのではなく、「終了した」ことを宣言しているものも3例見られた。

(14) これが課題1の図になる。(NS-D-7)

(15) 以上で課題1の図の説明は終わりです。(NS-I-7)

4. おわりに

以上のように、パラグラフィティングと一言で言っても、身につけやすい項目と身につけにくい項目があることが分かってきた。トピックセンテンスを書くということは意識されやすいと思われるが、段落を意識して書く、コンクルーディングセンテンスを書くということはなかなか身につけにくいようだ。特に段落を意識して書くということに関しては、意識付けをかなり明確にさせる必要があるのではないだろうか。

ただ、現在の調査ではある大学の1年次生11人だけの述べ方の変化であり、ある程度の傾向

はつかめても、一般化するには不足だろう。さらに調査対象者を増やす必要がある。

また、三森（2013）が言うように、ドイツを主とするヨーロッパ諸国の学生はパラグラフライティング、空間配列の意識がしっかり身につけているのかも調査したいと考えている。

また、この課題はあくまでも授業内の「架空」の出来事であり、学生たちが真摯に「伝えたい」という欲求を持って述べている課題ではない。テストには複数の記述問題があり、その中の「図形を伝える」という課題を軽く考えてしまった学生もあったのではないかと考えている。内容も短く、段落を作る必要性を感じなかった可能性も否定できない。

「伝えたい」という切迫感を持って取り組んでもらえる課題を考えることも今後の課題であろう。

注

- 1 現在（2015年）の開講科目としては日本語のスキル1～日本語のスキル4 がある。
- 2 授業の内容については、また稿を改めたい。
- 3 文章末の記号は、「母語話者一人の識別記号一採集月」を意味する。

参考文献

- NHK日本語センター（2001）『人前で話す基本 新・明快話しことば』
- 株式会社Z会（2015）『わくわくエブリスタディ』7月号 国語5
- 黒澤純子（2014）「コミュニケーション・スキルを身につけるための国語の学習 海外における言語技術（Language Arts）の学習を参考に」『東邦学誌』第43巻第4号 愛知東邦大学
- 佐藤・木原（2009）『『文章表現演習』における日本人学生の変容-グループでの話し合いを通して-』『国際教育』第2号 日本国際教育学会
- 三森ゆりか（2013）『大学生・社会人のための 言語技術トレーニング』大修館書店
- 高木典郎（2015）「国語科におけるジェネリックスキルと「汎用性のある技能」」『日本語学』vol. 34-4 pp. 2-24
- 西垣順子（2006）「大学生の議論型ライティングの測定」『信州大学高等教育システムセンター紀要』2 pp. 119-128
- 野田尚史（2009）「話し方と書き方のリテラシー」『日本語学 特集日本語リテラシー教育をめぐって』vol. 28-2 pp. 24-33
- 文部科学省（2008）『学習指導要領解説国語編』〈http://www.mext.go.jp/component/_a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2014/04/15/1234912_2_1.pdf〉
- 山本裕子（2008）「大学生の『書く力』の実態調査」中部大学『教育研究』No. 7 pp. 51-56
- 山本裕子・福田亜紀（2012）「小論文における「論理の明確さ」に関する1考察 一日本人大学生の小論文の分析から一」『中部大学人文学部研究論集』第28号 pp. 63-78
- YAHOO!知恵袋（2015年8月10日閲覧）
〈<http://note.chiebukuro.yahoo.co.jp/detail/n76821>〉

YAHOO!知恵袋 (2015年8月10日閲覧)

< http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10128206075>

YAHOO!知恵袋 (2015年8月10日閲覧)

< http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q10147785360>

謝辞

ザグレブ大学でご指導，コメントいただいた先生方にお礼申し上げます。また，データの提供に協力してくれた京都外国語大学日本語学科1年次生のみなさんにお礼申し上げます。ありがとうございました。